

# 広島研修



## “平和”を心に・・・

弥富北中学校 山口 希音

被爆の体験者である河野キヨ美さんに戦争時の壮絶な過去を聞いた。当時の中学生は、建物疎開をし、そして中学生以上は学徒動員として工場に働いていたようだ。毎日の重労働は「日本が必ず勝つ」と信じていても、不安と苦しさで心がいっぱいであったであろう。特に、電車の手すりから黒こげの手がぶら下がっていたという話が印象に残った。普段からは想像もできないような様子を、思わず鳥肌が立ってしまった。

この広島研修では、多くの平和について触れることができた。

「鶴を千羽折ったら願い事が叶う」という言い伝えを信じ自らの延命を願って鶴を折り続けたが、9か月の闘病生活の後で亡くなられた佐々木禎子さん。その後、多くの募金が寄せられ「原爆の子の像」が作られ、折鶴は平和のシンボルになった。

「ローマ法王平和アピール」の、

「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命を奪います。戦争は死そのものです。

過去を振り返ることは将来に対する責任をになうことです。

ヒロシマを考えることは、核戦争を拒否することです。

ヒロシマを考えることは、平和に対しての責任を取ることです。」

という短い文の中にたくさんの想いがつまっていて、平和の尊さを改めて感じた。

戦争という歴史は変えられないが平和をつくることはできる。1人ひとりの小さな想いが大きな想いとなっていく。だからまずは少しでも平和を心に刻んでほしい。



## 全てを奪われた広島

弥富北中学校 中澤 李咲

今から73年前、現代では考えられないような光景が広島では広がっていた。

たった一発の原子爆弾で半径約2キロメートル内の建物を全て破壊した。地上は約3000～4000度まで温度が上がり、爆風は爆心から500メートル。1平方メートルあたり約11トンにもなったという。とても人間が耐えられない状況だったろう。

広島市が破壊され、住んでいた人々の家も全てなくなってしまった。そんな中、コンクリートでできた袋町小学校は残っていたため、人々の避難所になった。当時は原爆が落とされたことで家族がバラバラになり生存しているのかもわからない状況であった。そこで人々が、自分が生存していることを伝えるために使われたのが袋町小学校の壁だった。家族の生存確認さえままならないような状況であったことが感じられる。

原爆が落ち、広島が破壊された原因の1つとして建物の燃焼が挙げられる。その熱によって溶け変形してしまったビー玉とガラス瓶。ガラスが溶けるほどの熱、そして長時間消えなかった炎が、それによって感じられる。

原爆が実際に落とされた広島に行き、被爆者の講話や被爆ピアノの演奏などの一生に一度や二度の貴重な体験を通し、実際に行ってみなければ感じることをできなかった原爆の悲惨さ平和を願う人々の思いを知ることができた。

私たちは今回学んできたことを次の世代へ受け継ぐ必要がある。平和な世界をつくっていくために。



# 桜小学校



## 1人ひとりが充実感を味わえる算数教育に取り組んでいます

桜小学校では、これまで人権教育に取り組む中で、「他者の話を自己の考えと比較しながら聞き、自己の考えを深めたり、友達のよさを見つけたりすることのできる力」を培ってきました。その力を基盤として、「できた！」「わかった！」を実感できる算数科の授業づくりに取り組んでいます。

### さくらタイム



計算確認プリントに取り組む子どもたち



音声計算をする子どもたち



授業前に「さくらタイム」を設定し、計算確認プリントにより子どもたち1人ひとりが自分の苦手分野をつかんだり、補充プリントで繰り返し知識の確認や技能を高める問題を解いたりすることによって、基礎的な知識や技能の定着を図っています。また、四則計算を基本とした音声計算を行い、計算の基礎力向上を目指しています。

### 算数科の授業



自分の考えを発表する

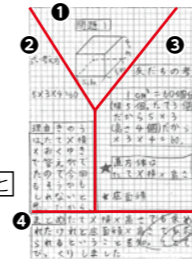


友だちの考えにつけ足す



タブレット端末を利用した授業

- ① 課題
- ② 自分の考え
- ③ 友達の考え
- ④ 授業を通して学んだこと



「思考ツール」を活用したノートづくり



ミニボードを使った学び合い



タブレット端末を利用した学び合い

「主体的な学び」の入り口は、つかむ段階での問題提示の工夫にあると考えています。低学年では、具体物を提示しています。課題を提示し、各自が課題をつかんだ後、個人が見通しをもつ時間を十分に確保し、自力解決ができるようにしています。その後、学び合いの時間を確保しています。「相手の反応を見ながら、考えを理解してもらうように話す」「自分と同じか比べながら聞く」ことができるように、自力解決の段階でノートやプリントに表した式や図、求め方の説明を話し手に見せながら伝えるようにしています。また、聞き手を意識した伝え方ができるように、「ここまでいいですか？」と聞き手の反応を確かめる言葉を入れながら話すようにはたらきかけています。